



世界史 B 問題

はじめに、これを読みなさい。

1. この問題用紙は 12 ページある。ただし、ページ番号のない白紙はページ数に含まない。
2. 解答用紙に印刷されている受験番号が正しいかどうか、受験票と照合して確認すること。
3. 監督者の指示にしたがい、解答用紙の氏名欄に氏名を記入すること。
4. 解答は、すべて解答用紙の所定欄にマークするか、または記入すること。所定欄以外のところには何も記入しないこと。
5. 問題に指定された数より多くマークしないこと。
6. 解答は、必ず鉛筆またはシャープペンシル(いずれも HB・黒)で記入のこと。
7. 訂正する場合は、消しゴムできれいに消し、消しくずを残さないこと。
8. 解答用紙は、絶対に汚したり折り曲げたりしないこと。
9. 解答用紙は全て回収する。持ち帰らず、必ず提出すること。ただし、この問題用紙は、必ず持ち帰ること。
10. 試験時間は 60 分である。
11. マークシート記入例

良い例	悪い例
	

〔 I 〕 次の文章を読み、下記の間(1～5)に答えなさい。

紀元前 1500 年頃、アーリア人はインドのパンジャーブ地方^(a)に移住してきた。彼らは、馬や二輪戦車や青銅製の武器をもっていたようである。当時の彼らの社会は『リグ＝ヴェーダ』によって知ることができる。

^(b)紀元前 1000 年頃には、彼らの社会にバラモン教が成立し、「生まれ」を基準にして身分関係を厳しく維持する制度が形成された。仏教とジャイナ教^(c)は、そのような社会に、紀元前 6 世紀あるいは 5 世紀に成立した。成立した場所は、ガンジス川流域であった。

当時、ガンジス川流域には多くの国家があったが、その中ではマガダ国が最も優勢であった。紀元前 4 世紀半ばには、ナンダ朝のマガダ国がガンジス川流域をほぼ統一した。その後は、の創始したマウリア朝がナンダ朝から王位を奪い、またインダス川流域のギリシア勢力を一掃して、ガンジス川とインダス川にまたがる統一王国を建設した。

紀元前 3 世紀末、マウリア朝が衰退すると、西北インドには、バクトリアが侵入した。バクトリアはギリシア人が建てた王国であったので、この侵入によってインドにギリシア風の文化が流入することとなった。バクトリアが減んだ後、紀元後 1 世紀には、クシャーナ朝が建てられた。クシャーナ朝はカニシカ王^(d)の時代に、ガンダーラ地方を中心とする大国となった。

問 1 下線部(a)に関して、「パンジャーブ地方」はどこにあるか。次の選択肢(A～D)の中からもっとも適当なものを選びなさい。

- A インダス川河口
- B インダス川中上流域
- C ガンジス川中上流域
- D アム川流域

問 2 下線部(b)に関して、ヴェーダについて記した次の文章(A～D)のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- A 『リグ＝ヴェーダ』には、神々への賛歌が記されている。
- B ヴェーダは、バラモン教の根本聖典である。
- C ウパニシャッドは、ヴェーダの最古の部分である。
- D ウパニシャッドには、梵我一如の思想が説かれている。

問 3 下線部(c)に関して、仏教とジャイナ教について記した次の文章(A～D)のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- A ジャイナ教の開祖は、クシャトリア階層の出身である。
- B 仏教とジャイナ教は、ともに輪廻転生の考えを前提にし、その苦しみからの解脱を求めた。
- C 仏教とジャイナ教は、ともに苦行を肯定的に説いている。
- D 仏教とジャイナ教は、ともにヴァルナ制度を否定している。

問 4 下線部(d)に関して、カニシカ王は仏教を保護したといわれるが、これは大乘仏教であった。この大乘仏教について記した次の文章(A～D)のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- A 大乘仏教はおもに中央アジアを経て中国に伝わり、さらに朝鮮半島・日本にも伝わった。
- B ナーガールジュナは、大乘仏教に理論的基礎を与えた思想家である。
- C 諸菩薩を拝することは、大乘仏教の特徴である。
- D 『マハーバーラタ』はサンスクリット語で書かれた大乘仏典である。

問 5 空欄 ① に入る語としてもっとも適当なものを次の選択肢(A～D)の中から選びなさい。

- A ヴァルダマーナ
- B チャンドラグプタ
- C カーリダーサ
- D アショーカ王

〔Ⅱ〕 次の文章の空欄(①～⑩)にあてはまる最も適当な語句を選び、記号(A～D)で答えなさい。

イエスの使徒の一人である ① を創始者と仰ぐローマ・カトリック教会は中世において王や皇帝などの世俗権力と結びつくことで大発展を遂げたが、その一方で、人間的な弱さによる聖職者の腐敗と世俗化を防ぐことはできなかった。そのため、早くも6世紀にはイタリアのモンテ＝カッシーノで ② が祈りと労働を基本とする戒律を定めて修道院運動を起こしたが、時間がたつにつれて、 ② 系の修道院も腐敗・世俗化を免れず、10世紀には、より禁欲的な ③ 修道院がフランス中東部につくられて、ローマ・カトリック教会改革運動を進めることになる。だが、貨幣経済の浸透により、聖職売買を始めとする腐敗・世俗化はローマ・カトリック教会自体を蝕んで、修道院も例外とはならなかった。

また、13世紀末に即位したローマ教皇 ④ が教皇権の絶対性を主張して、聖職者への課税問題でフランス王 ⑤ と争ったが捕らえられて屈辱のうちに死んだ。その後、教皇庁はフランス王 ⑤ によってアヴィニョンに移されて、教皇がローマに戻った後もアヴィニョンにもう一人の教皇が立つという教会大分裂が生じた。

このような状況において、イギリスでは聖書こそが信仰の中心であるとする ⑥ が現れて教会のあり方を批判し、聖書の英語訳を行った。15世紀に入ると ⑥ の主張に共鳴したベーメンのフスがより過激に教会改革を迫ったため、ローマ教皇から破門の宣告を受け、 ⑦ 公会議によって異端を理由に火刑に処せられた。

しかし、16世紀に入ると教会改革の動きはもはや制止できないものとなった。そのきっかけは、教皇 ⑧ がヴァチカンの大聖堂の改築資金を得るために売り出した贖宥状である。この措置に対して、神学教授マルティン・ルターが『95箇条の論題』を発表して、魂の救済を得られるのは贖宥状ではなく心の中の信仰によると批判したため教皇からは破門された。さらにルターは神聖ローマ帝国皇帝カール5世から自説の取り消しを要求されたが、反皇帝派のザクセン選帝侯の城内に匿われて、『新約聖書』のドイツ語訳に従事したことから、教会改革運動が政治の分野にも広がった。改革運動は、農奴制の廃止を求めるドイツ農民

戦争にまで発展した。この農民戦争はローマ教会を支持するカール5世によって鎮圧されたが、以後、ルターの主張に共感する諸侯や都市が増え、⑨ 同盟を結んで、皇帝に戦いを挑んだ。両派の争いは1555年にアウクスブルクの和議によって終結し、ドイツの諸侯はカトリックかルター派のいずれかを選ぶことが認められたが、これが17世紀に30年戦争を引き起こす遠因となる。

いっぽう、スイスのチューリッヒでは⑩ の改革運動が起こり、ついでジュネーブでカルヴァンが宗教改革に着手して、人間の救済は神によってあらかじめ決定されているとする予定説を唱え、現世の職業に励むことを奨励したので、各国の商工業者の間では、労働の結果としての蓄財は神に認められるという職業倫理が確立され、近代的資本主義が用意されることとなったのである。

- | | |
|-----------------|------------|
| ① A ペテロ | B パウロ |
| C ヨハネ | D ヤコブ |
| ② A グレゴリウス | B ベネディクトゥス |
| C ドミニコ | D クリュニー |
| ③ A グレゴリウス | B ベネディクトゥス |
| C ドミニコ | D クリュニー |
| ④ A インノケンティウス3世 | B ウルバヌス2世 |
| C ボニファティウス8世 | D レオ10世 |
| ⑤ A シャルル5世 | B フィリップ2世 |
| C ルイ9世 | D フィリップ4世 |
| ⑥ A ワット・タイラー | B トマス・アキナス |
| C ウィリアム・オッカム | D ウィクリフ |
| ⑦ A コンスタンツ | B トリエント |
| C ニケーア | D ローマ |
| ⑧ A インノケンティウス3世 | B ウルバヌス2世 |
| C ボニファティウス8世 | D レオ10世 |
| ⑨ A ハンザ | B ザクセン |
| C プロテスタント | D シュマルカルデン |
| ⑩ A エラスムス | B ツヴィングリ |
| C イグナティウス・ロヨラ | D コペルニクス |

〔Ⅲ〕 次の文章を読み、下記の間(1～7)に答えなさい。

(a) 日清戦争後の朝鮮半島では、年に大韓帝国が成立したが、国内状況が不安定であった一方、ロシアや日本をはじめとする諸外国が朝鮮半島の支配の利権を狙って対立した。そのなか、ロシアの中国東北部への進出を警戒するは日本と年に同盟を結び、アメリカ合衆国も日本に味方した。ロシアを支持したのは、1891～1894年にロシアと同盟を結んだと、ロシアの関心が東に向かうことを歓迎したであった。は1898年、宣教師殺害事件を口実に膠州湾を租借した。

その様な朝鮮半島及び中国東北部の支配を巡る国際対立を背景に、日露戦争は1904年に勃発した。しかし、日本海海戦等での勝利にもかかわらず、日本の国力・戦力は限界に達し、他方ロシアも国内情勢が悪化し社会不安が高まったため、の仲介で、1905年条約の成立により日露戦争は終結した。

(b) 日露戦争の結果は、アジアをはじめとする国際関係に新しい展開をもたらした。当時、ヨーロッパの大国であったロシアに対する日本の勝利は世界を驚かせ、解放や独立を望むアジア諸国の民族主義者を勇気付けたが、韓国併合や中国東北部への進出等の、その後の日本の帝国主義的動きは、これらのアジア諸民族の期待を裏切るものであった。^(c)

問1 空欄に入れる語として最も適切なものを次の選択肢(A～D)の中から一つ選びなさい。

- A ウラジオストク
- B ポーツマス
- C イリ
- D ネルチンスク

問 2 α 条約による結果について書かれた次の文章(A～D)のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- A 日本が韓国に対する保護権を獲得した。
- B 日本が遼東半島南部の租借権、南満州の鉄道利権を獲得した。
- C 北緯 38 度以南の樺太(サハリン)と千島列島は日本の領土となった。
- D ロシアからの賠償金を断念したため、日本は自国民の怒りをかっった。

問 3 下線部(a)の日清戦争について書かれた次の文章(A～D)のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- A 日清間の対立が高まっていた 1894 年に、朝鮮国内でおこった甲午農民戦争に日清両国が出兵したことにより勃発した。
- B 北京条約により日本の勝利で終わった。
- C 清は朝鮮の独立や日本への遼東半島・台湾・澎湖諸島の割譲などを認めたが、遼東半島はロシアなどの圧力により、清に返還された。
- D 日清戦争後の日本は、大陸侵略の基盤を朝鮮に築こうとしたが、極東で南下を目指すロシアとの対立が高まった。

問 4 下線部(b)の日露戦争後の国際関係における変化について書かれた次の文章(A~D)のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- A ロシアでは、日露戦争の失敗を契機に、ストルイピン政権が自由主義的
改革に着手したため、第1次ロシア革命が起こった。
- B 中国では、清朝政府が、近代国家の建設に向けて改革を行ったが、1911
年に辛亥革命が起こり、1912年に中華民国が成立した。
- C 日本とアメリカは「桂・タフト協定」を結び、朝鮮に対する日本の、およ
び、フィリピンに対するアメリカの支配権を相互に尊重することを承認し
た。
- D 日本とロシアは日露協約を結び、中国における権益を調整した。

問 5 下線部(c)の韓国併合について書かれた次の文章(A~D)のうち、誤ってい
るものを一つ選びなさい。

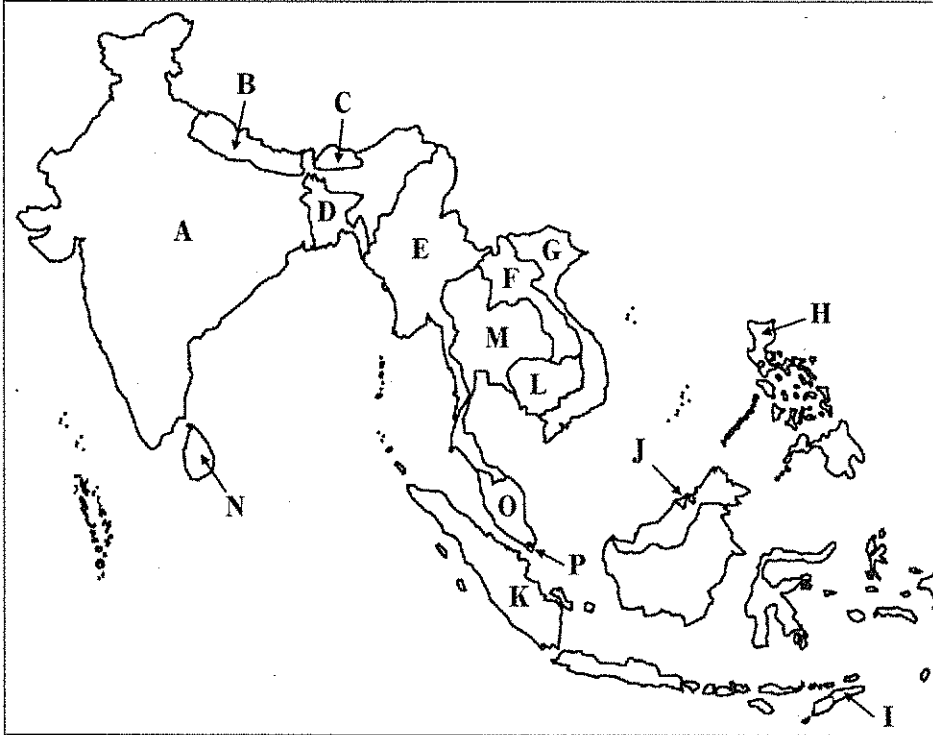
- A 日本は、3次に渡る日韓協約(1904, 05, 07年)により統監府の設置や
韓国の保護国化を進め、その外交・内政の実権を奪っていった。
- B 日本の初代韓国統監であった伊藤博文は、韓国人青年の安重根により
1909年にハルビンで暗殺された。
- C 日本による実質的支配が進んだことに対し、韓国各地で民衆が武装抗日
闘争(義和団事件)を起こした。
- D 1910年の韓国併合後、日本はソウルに朝鮮総督府をおき、韓国を植民
地にした。

問 6 空欄 と に入る年代を解答欄にそれぞれ書きなさい。

問 7 空欄 ~ に入る国名を解答欄にそれぞれ書きなさい。

[IV] 【図α】は現在の南アジア及び東南アジアの一部を示した概略図である。この図に関する次の問(1～6)に答えなさい。

【図α】



問 1 次の文章(1～10)が示す内容に最もあてはまる国を【図α】から選び、その記号(A～P)を解答欄にマークしなさい。

1. 1887年にフランス領インドシナ連邦が創設された際、この国にある都市に総督府が置かれた。
2. この国にあたる地域は、1899年にフランス領インドシナ連邦に編入された。

3. 図αに示された国のなかで、1950年時点でポルトガル領植民地であった国、ないし、その植民地であった地域を含む国は、A国とこの国である。
4. スペインは16世紀後半にこの国にある都市を貿易の根拠地にし、ここを中心にアジアにおける植民地の経営をおこなった。
5. オランダは1623年に「香料諸島」として知られていた地域で香辛料貿易に従事していたイギリス人商館員を虐殺したが、この「香料諸島」は現在この国の一部である。
6. 19世紀に海峡植民地を創設したイギリスが1888年に保護領化した地域に、この国の国土はすべて含まれる。
7. 1814年から1816年にかけてのグルカ戦争で、イギリスはこの国を征服した。
8. イギリスは1815年のウィーン会議において、オランダからケープ植民地とマルタ島、および、この国の地域を獲得した。
9. 1886年、この国にあたる地域に存在していたコンバウン朝がイギリスによって滅ぼされ、インド帝国に併合されることとなった。
10. 1867年、それまでこの国の地域の宗主国であったシャムが、フランスに同地域の保護権を承認し、1887年にこの地域はフランス領インドシナに編入された。

- 問 2 **M国**を中心とする地域に存在し、13世紀末のラームカムヘーン王の時代に最盛期を迎えた王朝の都の名をカタカナで答えなさい。
- 問 3 ラーマ1世がビルマ軍を退けて築いた王朝の都となった**M国**の都市名をカタカナで答えなさい。
- 問 4 1955年4月に「第1回アジア・アフリカ会議」が開催された**K国**の都市名をカタカナで答えなさい。
- 問 5 1670年代にフランスの東インド会社が獲得し、**A国**におけるフランスの拠点の1つとなった同国東南部の都市名をカタカナで答えなさい。
- 問 6 17世紀以降にイギリスの東インド会社が**A国**に築いた三大拠点の1つで、**A国**の東南部沿岸に位置する都市名をカタカナで答えなさい。

〔V〕 次の文章を読み、下記の間(1～5)に答えなさい。

中国に伝えられた仏教は、魏晋南北朝時代に社会一般に広まり、隋・唐時代に大きく発展した。その際、仏典を求めてインドまでおもむいた僧たちがもち帰り、漢訳した仏典が、大きな役割を果たした。中国に伝わった仏教は、さまざまな宗派を成立させつつ発展し、中国独自の仏教を形成した。そのようにして形成された中国仏教は、さらに朝鮮半島へと伝えられた。

問 1 下線部(a)に関して、4世紀末から5世紀にかけてインドにおもむき、仏典をもち帰った僧で、『仏国記』を記した者の名を漢字で記しなさい。

問 2 同じく下線部(a)に関して、7世紀前半にインドにおもむき、仏典をもち帰った僧で、『大唐西域記』を記した者の名を漢字で記しなさい。

問 3 下線部(b)に関して、達磨を開祖とし、経典の文字にとらわれずに修行することを重んじる宗派の名を漢字で記しなさい。

問 4 下線部(c)に関して、仏教遺跡で知られる新羅の都の名を漢字で記しなさい。

問 5 同じく下線部(c)に関して、11世紀には朝鮮半島で大がかりな仏典の集成と印刷がおこなわれたが、それがおこなわれた国の名を漢字で記しなさい。

[VI] 次の間に答えなさい。

問 南アフリカで導入されたアパルトヘイト政策の概要について、3行で説明しなさい。